

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 9 月 3 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200759		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター己斐		
所在地	広島市西区己斐大迫二丁目41-3 (電話) 082-831-3631		
自己評価作成日	2019.8.28	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200759-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	令和 1年 9月 3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご入居者が、その人らしくいつまでも穏やかに生活していただけるホームとして、利用者志向・ニーズをお大切にするホームを目指している。 訪問看護ステーションと提携をとりながら日常的な健康管理を行い医療が必要になった場合に適切な対応が取れるよう医療連携をとり実施している。 地域住民との交流を深める為にイベントや地域の交流会等と一緒に参加し地域に密着したグループホームを目指している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームニチイケアセンター己斐は、JR山陽本線の西広島駅より大迫団地線ボン・バスにて20分「国迫団地」で下車、徒歩5分の団地の一角に位置している。入居者の様子を記録する介護記録や月1回の職員会議等、職員間での情報共有を図っている。ホームは2ユニットでフロアが分かれているが、必要に応じてフロア間の協力もある。日勤者と夜勤者との引継ぎは業務管理日誌を元に適切に行われ、スムーズな支援が行われている。家庭的な環境の下で、日常生活上の生活リハビリを行い、職員が利用者の状況と残存能力を見極めながら、食事の準備や後片付けでの洗い物や下膳、洗濯物のたたみ、自分の居室内の掃除等を出来る範囲でやってもらうように促しており、職員は利用者に対する過度な介護は行わないようにして、適切な声掛けや安全への配慮、必要な環境の整備等の支援をしている。</p>

ニチケアセンター 己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念「笑顔で自分らしく安らぎのある生活を支えます」各ユニットに掲示。毎朝 朝礼で唱和している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念「笑顔で自分らしく安らぎのある生活を支えます」を各ユニットに掲示し、会社の社是と共に、朝の申し送り時に職員全員で唱和している。職員は、日常の業務の中で課題が見つかった場合には、理念に立ち返って話し合い、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ホームでの行事案内・通信を毎月 回覧板で地域の方へ周知している	今年になり町内会が復活し「ほほえみ通信」や「見学会の案内」を回覧板で回覧して頂いている。8月の盆踊りには職員が参加し、役員に挨拶をして交流している。町内会の防災訓練に職員2名と利用者1名が参加し、救命救急等の研修を受けている。又、町内の清掃に職員が参加して交流している。	町内会が解散して先行き不安でしたが、復活され町内会長も事業所の支援を頂けるとの事で、今後、益々交流が盛んになる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関してのご相談等があれば相談をお受けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、民生員、町内会会長、オーナー様、地域包括センターの職員様等のご意見を聞き、改善に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・家族4名・オーナー・管理者・支店長・事務員が参加し、利用者の現状と事業所の現況報告、行事計画と行事報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価への取組状況等について説明し、意見交換している。参加者からの意見や助言等をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議案内、通信、見学会案内等を毎月 郵送している。介護保険の更新等で窓口へ出向いている。	市担当者とは、申請書類提出時に直接出向いて助言を得たり、電話やメール、FAXで情報交換を行ったり、区役所職員が来訪して、入居希望者の相談を受けたり、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の場で、日常での困り事等を相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は、夜間及び土日祝日以外は施錠はしていない。身体拘束に関しては、ご入居者の緊急やむを得ないなどの状態がある場合はご家族に説明、同意を得ている。ただし、検討会を2ヶ月一回に行い、解除できるように努めている。	毎月、身体拘束についての検討会を開催している。又、外部研修(虐待防止について等)の内容を伝達研修で学び、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、毎月の職員会議の中で、管理者が注意している。日中は玄関を開錠し、外出したい利用者には、職員と一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回研修を行う。社内での虐待防止キャンペーンの開催、ポスターの掲示を行っている。		

ニチケアセンター 己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフの周知徹底に取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時は説明の場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設けたりその都度、管理者、職員に対して表せる機会を作るように配慮している。	月1回の利用料の支払での来訪時や面会時、運営推進会議出席時、行事(敬老会、誕生日会、クリスマス会)参加時等で、家族の意見や要望を聞いている。事業所だよりに、利用者の近況等を書いたり、電話やメール等によって、家族からの意見が出しやすい関係作りに努めている。家族の意見から、職員の言葉使いへの配慮、食事介助の手順の改善等、家族の意見をサービス向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、職員に対して表せる機会を作るように配慮している。ホーム会議の開催を利用している。	管理者は、月1回の職員会議やユニット会議、毎日の申し送り時に、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者との個人面談や、日常でも職員に直接声を掛ける等で、意見を言い易い環境を整えている。意見や提案は十分検討した上、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内で体と心の健康作りとして相談、カウンセリングを行える相談窓口を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修については広く情報提供をしている。新卒採用者にはカリキュラムに沿って育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の交流会へ参加し、情報交換を行っている。認知症カフェの参加。		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に面談等の調査にて実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談等の調査にて実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン等に入れ実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の意向、立場で考え、介護を行うように努めている。そばに寄り添い会話やスキンシップを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事等の参加を促したり、面会時や、必要に応じ、近況報告をさせていただきながら、本人の事を考える場を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は積極的に促している。今まで使用してきたなじみの品(家具、写真、作品)を持ってきていただくなど、居心地の良い環境作りに努めている。	昔からの友人、知人が来られた場合、本人、家族からの拒否がなければ、随時、面会を受け付けている。ドライブで、自宅周辺に行ったり、馴染みのスーパーでの買い物で近所の人と挨拶を交わしている他、家族の協力を得て、墓参りや寺参り、法事への参加、盆や正月の一時帰宅、外食、買い物、理美容院の利用等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立せず、仲良かかわりが生まれる機会、工夫をする。(共同作業)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も出来る限りの助言、相談に努めている。		

ニチケアセンター己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を優先しつつ、困難な場合は(転倒の危険性が強いとき等)ご家族と相談し安全な対策を図っている。	日々の生活の中で、コミュニケーションを密にとり、意向や希望の把握に努めている。表情や態度からも思いを汲みとれるように努め、家族からも情報を得るようにしている。困難な場合は、職員会議で話し合い本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に面談調査や定期的な調査またはご家族様に聞き取りを行って、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察、健康チェック、記録等の強化職員間の連携に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを行い、問題提起に努めている。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、カンファレンスを開催し、利用者や家族の意見、かかりつけ医・看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。基本的には4ヶ月毎にモニタリングを行い、4ヶ月毎に見直しをしており、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、管理日誌、受診記録等で情報を共有し、介護計画の見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じ、主治医やご家族、職員等で話し合い現状に即した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の方々、地域包括、消防署、駐在所等の地域の方々に協力して頂き安全な暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前必ず、家族等の希望とかかりつけ医の確認、提携の説明をしている。緊急時にも提携医から連絡、指示を受けられる関係である。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。協力医療機関は、医師により2週間に1回往診があり、希望者には訪問歯科は毎週1回の往診がある。他科受診は、家族の協力を得て支援している。緊急時は、それぞれのかかりつけ医の指示を仰いで対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

ニチケアセンター 己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に提携の看護職員(隔週)へ入居者様の近況報告、または定期的に訪問看護ステーションの看護職員(週/1回)へ近況報告を行っている。必要に応じて夜間帯・緊急時に訪問看護職員による必要な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される病院の相談員と連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様の希望を聞き、ホームの現状を踏まえ提携医と訪問看護との提携を密にし、ホームとしてできる限りの対応をする方針ではある。重度化、終末期の状況、変化によって、ご家族、提携医、訪問看護と今後の方針を話し合い決めるようにしている。	契約時に、事業所で出来る対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族の意向を確認し、それぞれのかかりつけ医と話し合い、重度化、終末期ケアの経験を活かしながら、家族と密に連絡を取り、主治医とも相談しながら、看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに沿って研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員には広域避難場所の周知、各個人の防災グッズの周知徹底している。避難訓練は定期的に行っている。非常食等を常時、備えている。	年2回(1回は消防署の協力を得て)、火災を想定した通報訓練、消火訓練、避難訓練、避難経路の確認を利用者と一緒に実施している。土砂災害についても研修を行っている。又、非常災害用の食料を備蓄している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応について気になることがあれば、管理者により注意を促したり、ホーム会議等で勉強会を行ったりしている。個人情報の取り扱いに関しても徹底している。	職員研修を通して職員は、人権の尊重やプライバシーの確保について理解し、利用者の自尊心を傷付けず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者に対するプライバシーについては、入浴時や排泄時の言葉かけに対して、不適切な言葉や対応等がないかをその都度確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お客様に合わせて、言葉かけや働きかけを工夫している。選択肢を提供しご本人様が選択できるような対応もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常日頃、お客様のペースに合わせるように指導している。		

ニチケアセンター 己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみ、おしゃれに関してはできる限りの配慮、支援している。理容・美容に関しては訪問美容を利用している。毛染め、顔そり、カット、パーマの対応は可能である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	何か食べたいか意向を聞き、メニュー等に取り入れるように努めている。お膳を並べたり、お皿を拭いたり、個々のできる範囲で職員と一緒に頑張って頂いている。	食事は、朝・夕食は配食業者の食材を使用し、昼食は事業所内で調理している。利用者の声を直接聞いて献立表を作成し、旬の食材を使った栄養バランスの採れた食事を提供している。簡単な野菜の下ごしらえ等を利用者に手伝ってもらったり、味見をして頂いたりして、調理の過程も楽しんで頂けるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	介護記録により日々の管理は行っている。食事量や水分量が少ないなどは、その都度、提携医に相談、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前に口腔体操をしている。毎食後に口腔ケアを促し介助している。又、訪問歯科を利用して定期的な検診等も行っている。義歯の方は夜間ポリドント等の洗浄剤にて洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介護記録を活用し、排泄パターンの把握に努めパットやリハビリパンツを出来る限り使用せず、トイレでの排泄を心掛けてケアしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや適切なトイレ誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。トイレ介助時は、ズボンの上げ下げ等出来る事はやって頂き、残存機能を活かし、自立支援を図るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通の良くなるよう献立の工夫や飲み物等の工夫をしている。また、散歩等で体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時は利用者様の意向を確認した上で行っている。	週2回、午前中に入浴を実施している。本人の意思を確認し、状態によって、シャワー浴、清拭、足浴にも対応し、冬期は、ゆず湯での楽しみもある。入浴したくない人には、職員の交代や声かけの工夫をして、無理強いしないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様個人のペースに合わせて支援するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報を個人ファイルに薬の目的・副作用・用法・用途についていつでも見ることができる状態にしている。薬が変わった時には症状の変化の確認に努めている。提携薬局と連携し安全に服薬出来るよう支援しています。		

ニチケアセンター 己斐

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴、趣味、性格等を活かした役割、楽しみごとを提供し、支援をして行く事に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に応じて散歩に出掛けている。散歩できない利用者はお庭で日光浴等行っている。	近所の散歩に出かけ挨拶を交わしたり、スーパーに買い物に出かけた折には、店内でご近所の方と会話を楽しませている。事業所の庭には、ナスやトマト・きゅうり・ゴーヤ等を育てていて、利用者は畑を耕したり、水やりや収穫を楽しませている。近所の方より、トマトや栗を頂き皆さんで食したり、又、春には桜の花を頂き、事業所内で花見を楽しませている。	利用者の体調や気候を考慮し、職員の体制を整え、花見・紅葉狩り・外食・季節の花を觀賞に行く等、家族の支援も頂きながら、外出が増える事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おごづかい金としてホームでお預かりしているが、買い物時はお金をご自身に持って頂く等の支援をしている。レジにて精算できるかたにはしていただいている。(見守りのもと)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気になるよう心がけている。又、季節の行事に合わせて、飾り物をする工夫をしている。	南側の大きなガラス窓から入る陽ざしで明るいリビングには、広い食卓やイス、大型のテレビを配置している。壁には、外出時のスナップ写真や季節に合わせた壁面飾りを飾り、テーブルには、季節の花を飾って、季節感を感じる事が出来る。加湿器を使って、湿度にも配慮している等、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前に椅子がありそこで利用者様が好きなテレビ番組を観られたり、気の合う利用者様同士が仲良くお話しされそれぞれ寛げるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前使っておられた家具等持ってきて頂くよう促したり、作品や写真等を持ってきて頂いて、ご本人様の居場所であるという意識を持って頂くよう工夫している。	鏡台・ベッド・ソファ・机・椅子・人形・衣装ケース・家族写真等を持ち込まれて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内バリアフリー設計で車椅子を自走できる方でも危険のない生活ができるようになっておりご自分でできる事は職員が見守り声を掛ける。浴室、トイレも手すりを設置し自立できるよう整備されている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

ニチイケアセンター己斐

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター己斐

作成日 令和 1 年 9 月 4 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	昨年度、町内会活動が無く地域交流が密に行えなかった。	今年から町内活動が復活する事になり様々な活動に参加し地域密着したホーム作りを目指す。	町内会長、民生委員と積極的に交流を図る。運営推進会議へのご案内を毎回、声を掛け出席して頂く。	1ヶ月
2	49	ホームでの外出支援が出来ていない。	季節に応じた外出を行い充実した暮らし作りを提供する。	行事委員会を中心に季節に応じた外出支援の計画を立てる。ご家族へ外出支援計画を報告し出来る限り協力をお願いする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。